

平成 28 年度
自己点検評価報告書

目白大学短期大学部

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	総括評価シート	組織名称 (評価単位名称)	短期大学部
--------------------------	---------	------------------	-------

(1) 特筆すべき事項

【教育】

①全学共通の「ベーシックセミナー」の見直しに基づく共通シラバスを作成・共通テキストを開発し、教育方法も研究しながら実施することができた。教育方法はアクティブラーニングを多用するように工夫し、学生の自発的学びを引き出すことについて一定の成果を得ることができた。

②資格取得を推進しているが、成果を上げることができた。サービス接遇検定、秘書検定、文書検定については数多くの取得者を出すことができた。リテールマーケティング、MOS検定については取得者数は多くないが上位級の合格者を出すことができた。

③製菓学科は初めての製菓衛生士コースの学生が入学し、29年度の資格取得の全員合格を目指し、指導・教育に力を注いでいる。

【研究】

①学内紀要への投稿数は増加し、学会への口頭発表数は増えたが、論文発表はなく、今後、研究活動を活性化させる必要がある。

【学生指導】

①クラス担任が中心となり学生の出欠状況を把握し、中退防止、学習の進捗状況に気を配り、昨年より一層情報の共有化に努めた。

②中退学生に対しては、クラス担任、特命学長補佐が面談をし、その理由をしっかりと把握できるシステムを構築し、進めている。

③就職に関する指導は、クラス担任、ゼミ担任が連携し、キャリアセンターとも連携を密にし、学生の進路相談にはきめ細やかな指導を行った。

④桐和祭、スポーツフェスティバル等の学校行事への積極的参加を促し、短期大学、学科への帰属意識の醸成を図った。

【社会貢献】

①包括連携先とのコラボレーションができ、成果を上げることができた。「米屋」との一口羊羹のパッケージの制作、ナボリアアイスクリームとのジェラートアイデアコンテストの実施・新商品の開発、西武信用金庫との東京物産・逸品見本市の出店、販売促進ボランティアに学生の参加等である。

②地域住民向けの「遺跡フェスタ」「染の小道」への学生ボランティアの参加があった。

③「公開講座」は2学科が実施し、多くの地域住民の参加が得られた。

【組織マネジメント】

①3学科とも情報の共有化を重点的に実施し、教員の参画意識を促した。

②学科長連絡会、PD会議を有効活用し、短大の問題の共有化、問題解決ができた。

③入試・学生募集を積極的に3学科の共通認識として進めることができた。

④短期大学部独自の取り組みに対してPDCAサイクルを意識して進めることができた。

(2) 今後の課題

【教育】

①学生に自発的・自律的学習の習慣が確立されていない。シラバス、授業方法の改善等を一層深化させ、自律・自発的学習を促したい。

②学科共通仕様のテキストの改訂にそった授業展開を一層強化させる。(製菓学科)

③短大部の教育目標の一つである社会で活躍できる人材を目指し、一層のマナーの向上を図る。

【研究】

①研究に関しては教員全体に低調であり、研究環境を整えるとともに共同研究の仕掛けを作っていきたい。

②紀要の充実を図り、外部の学会への参加、発表を促す。

【組織マネジメント】

①会議の効率的運営を図る。

②学科教員を学科長が指導、助言する習慣を確立する。

③提案型教員を育てるための仕掛けを作る。

【その他】

①学科助手の位置づけ、学科間の助手業務のバラツキ等があり、助手の業務分掌の見直しが課題である。

②学科に所属する教育専任教員の位置づけも難しいものがあり、検討する必要がある。

③生活科学科介護福祉コースは最後の卒業生を送り出すことができた。

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価		学科用評価シート	組織名称（評価单位名称）	生活科学科
項目	自己評価 ※箇条書きにて記入			
教育	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①「ベーシックセミナー」はビジネス社会学科との共通シラバスとテキストを使用し、毎週昼休憩に打ち合わせを実施した。その結果、授業指導や評価の標準化が実現した。教育歴に関わらない自由な意見交換は、教育方法の学びや振り返りにも有効的であった。</p> <p>②学生が苦手意識をもつ座学では、分かりやすい説明や実生活に即した内容を取り上げる工夫をした。実習授業でも学生のスキルレベルの差に苦慮しながらも、学生の満足度向上に向け対応をした。</p> <p>③提出レポートにコメントを記入して返却することで、回を追うごとに学習成果が何えるようになった。</p> <p>④「インターンシップ」履修率が上昇したが、所定期間に全員を就労できた。教社の企業よりビジネスマナーに関する賞賛も頂けた。</p> <p>⑤検定指導では、授業時間外や長期休暇を利用しての勉強会などを実施したこともあり、従来の合格率を超えた検定や新たに上位級の合格者を出した検定もある。検定への取り組みにより、学習習慣がついたことも評価に値する。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①提出物のチェックの負担が大きいため、工夫が必要である。</p> <p>②自ら考えるということに対する指導を導入する必要がある。</p>			
研究	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①『目白大学短期大学部 紀要』第53号への論文発表4件と、目白大学教育研究所『人と研究』No.11への発表1件は昨年度と同数だったが、学会誌への論文発表は0件と減少した。</p> <p>②学会発表は4件と昨年度より増加したが書籍物出版等がなく、全体的に昨年度より低調であった。</p> <p>③科学研究費基盤研究C（一般）の研究概要を「研究・教育発表会」にて発表することができた。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①学会の研究会への出席等の活動に、教員2名と助手全員の参加がなかった。また、校務との関係で参加できないケースやタイトな日程での参加になるケースが散見された。研究と業務との兼ね合いを図る必要がある。</p> <p>②各教員の研究が深耕していない。</p>			
学生指導	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①各教員がスタッフネットで開催状況を確認することができるようになり、タイミングよく指導することができるようになった。</p> <p>②就職指導に苦慮した学生もいたが、最終的に未内定者は1名にとどまる結果で安堵している。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①出席状況の芳しくない学生に対しては、本人や保護者との面談を密にしたが、経済面や精神面での問題を抱えた退学者が数名出てしまった。</p> <p>②専任教員の遅刻や欠席に対する指導はルール通り徹底されたが、一部の非常勤講師に認識の違いがあり徹底できなかった。</p>			
社会貢献	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①地域貢献として西武信用金庫主催の「物産・逸品見本市」への参加や「学生モニター会」を実施することができた。</p> <p>②第51回全国私立短期大学体育大会に実行委員として参加するなど、合計6件の業績を残すことができた。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①例年実施している、地域貢献としての「神楽坂福祉施設 神楽坂」におけるリハビリ手芸等の体験教室を開催することができなかった。</p> <p>②社会貢献項目のどの項目にも該当しない教員には、積極的にかかわることが課題である。</p>			
組織マネジメント	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①介護福祉コースの学生を全員卒業させて閉講することができた。</p> <p>②懸案であった大学社会情報学科とのコラボを、正式に解消することができた。</p> <p>③入試業務に関しては改善をに向けて、全教員が一丸となって前向きに取り組むことができた。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①教員と助手がお互いの立場を理解して、円滑な業務分担を図ることが課題である。</p>			
その他	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①生活科学科全教員が、新体制による困難な状況を乗り切るために真摯に校務に携わった。</p> <p>②PDC Aサイクルを充実させるために、各行事に関して全教員からの振り返りや来年度に向けた気づきなどを含めた報告書を残すことができた。PDCの段階まで蓄積できたため、来年度の業務はA段階からのスタートが可能となった。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①休日や長期休暇中の校務と、専門領域への学会参加や研究との調整が課題である。</p> <p>②アクティブラーニングについての取り組み姿勢を高めることが課題である。</p>			

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価		学科用評価シート	組織名称 (評価单位名称)	製菓学科
項目	自己評価 ※箇条書きにて記入			
教育	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①製菓衛生師関連科目に関しては、試験合格を意識しテキストに沿った内容としながらも従来通り実習授業と連動させながらの授業展開はある程度できたと思うが、実際受験前には補講等の対策の必要性は感じる。</p> <p>②授業以外でもコミュニケーションが活発になり学生との距離が縮まることで、実習・講義に関わらず細やかな指導につながった。</p> <p>③今年度から開始した製菓衛生師コースでは、製菓衛生師国家試験を視野に春学期の導入から秋学期の授業を進めてきたが、学力の違いから、想像以上に理解度や進行状況に違いが見られた。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①製菓衛生師関連科目担当の全教員（非常勤）で重複や漏れが無いよう検討や調整がなされたかという点と十分とは言えず、引き続きの課題である。</p> <p>②学科全体の授業で共通使用している教科書改訂に伴い、内容の見直し等に漏れが無いよう留意する。</p> <p>③日常的な礼儀作法が出来ない学生もおり、挨拶の必要性、大切さを教員も認識しながら授業を通して引き続き指導していきたい。</p>			
研究	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①製菓に関する紀要を発表し専任教員が研究などに値する製菓学科業務を遂行した。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①福島県矢祭町、米屋株式会社と連携をして新商品の開発と販売に至るまでの研究は、製菓学科の周知と共に地域貢献に大いに役立つと考える。パッケージデザインと並行して安全、健康をも考えていく。</p> <p>②株式会社ナポリアイスクリームとの新商品開発は学生のアイデアを活用するため企画コンテストを実施してレベルの高いジェラートを商品化できるよう引き続き継続する。</p>			
学生指導	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①面談結果を学科会議で共有したり、全学生の就職活動状況をリスト化することで、学科全体で学生をフォローし柔軟な対応を取った。1年生の中退者は減少し、2年生の卒業延期者も最低限に抑えることが出来た。進路決定者は昨年を上回るペースで推移し短大全体で常にトップを維持した。</p> <p>②製菓衛生師コースとオリジナルコースの学生の取り組み方には温度差を感じる。個としての学生は問題は感じられないがグループ作業がある学科故2年生の初めの段階での指導は注意が必要と考える。</p> <p>③困り感があり支援を受けている学生に対して保護者を含めた対応に尽力した。</p> <p>④日々の生活では学生として遅刻欠席をせず自ら積極的に学ぶ姿勢を身に付けられるよう指導することを心掛けた。実習では衛生的な作業を目指す意識を高め、安心・安全な菓子作りを習得できるよう心掛けた。</p> <p>⑤実習室の土足厳禁化は靴箱の設置により徹底された。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①就職に関して、内定率が上がったことは喜ばしいが次年度は是非100%を実現させたい。</p> <p>②挨拶、適切な言葉遣い、人の話を聞ける、素直に反省が出来る、知識の習得に貪欲、相手の立場に立って物が考えられる、感謝できる。以上の点について、出来ている学生はいるものなお一層徹底をしていきたい</p> <p>③困り感のある学生には保護者、学生相談室や障がい等アドバイザーと連絡を取りながら学科としてきめの細やかな対応をしていく</p>			
社会貢献	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①桐和祭での商品販売、喫茶販売などを通して地域の方々と交流を図り、菓子の魅力を伝えることが出来た。</p> <p>②「販売実践」の授業における売上金全額を、東日本大震災への義援金として日本赤十字社に継続寄付した。</p> <p>③「公開講座」により製菓学科の存在を最大限アピールできた。</p> <p>④米屋株式会社とはひと口羊羹のパッケージコンテストを実施し、入賞作品2点を商品化。大学ブランド商品として販売、学内利用のシステムを構築した。</p> <p>⑤株式会社ナポリアイスクリームとはジェラートアイデアコンテストを実施し、入賞作品3点を商品化。</p> <p>⑥西武信用金庫とは東京物産・逸品見本市に出展し、販売促進ボランティアとして短大生16名が参加。</p> <p>⑦中学生高校生を対象とした「スイーツコンテスト」を実施して、45名の応募者があった。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①本年度は高大連携事業が0件だったので積極的に取り組みたい。</p> <p>②引き続き「スイーツコンテスト」の開催を通して高校の先生方に本学科をアピールできるよう内容を再検討する。</p> <p>③材料提供の申し入れを頂いた福島県矢祭町との連携をより強固なものにし商品開発まで結び付けたい。</p> <p>④「製菓学科体験実習」を通して近隣の子供たちに菓子作りの楽しさ、親子で菓子を作る事の楽しさを引き続き体験させたい。</p> <p>⑤教員のゆとりの無さ、マンパワーの不足から今後の社会貢献、地域貢献について検討をしていきたい。</p>			
組織マネジメント	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①学内外及び受験生、保護者、卒業生に向けて製作した商品や作品を通じて製菓学科の授業等を周知する目的でメジスイーツblogを継続管理し閲覧数は安定して増えている。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①メジスイーツblogは今後も製菓学科の受験を検討している方々に授業内容及び日常の取り組みを公開することにより、これまで以上に本学科の理解が深められる魅力あるblogになるよう管理運営を強化する。</p> <p>②危機管理「食品取扱マニュアル」を遵守し遂行していく。</p>			
その他	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①教員、助手の選考並びに採用に関しては特異な分野故、慎重な上早期に適材の確保を考える必要があると考える。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①桐和祭時に訪れてもらえる多数の卒業生の為のコミュニティが必要と考える。</p>			

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価		学科用評価シート	組織名称 (評価单位名称)	ビジネス社会学科
項目	自己評価 ※箇条書きにて記入			
教育	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①リテールマーケティング検定試験では、3年連続で全国の短期大学で唯一の1級合格2名(合格率66.7%)、および2級合格6名(合格率66.7%)、3級合格9名(合格率23.1%)の取得者を輩出した。</p> <p>②秘書技能検定試験では、準1級合格者1名(取得率1.6%)、2級合格者19名(取得率28.8%)の取得者を輩出した。</p> <p>③MOS検定では、Word2013合格者3名の取得者を輩出した。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①平成28年度から1年生「キャリアデザイン」授業の担当をクラス担任が持つことになり、春学期のベーシックセミナーと関連付けて秋学期にも学生とのコミュニケーション機会が確保された。クラス担任として学生との個人認識・状況把握が確立されたこの環境を生かして、さらに退学・留年学生を減少させる対策に取り組んでいく予定である。</p>			
研究	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①学内特別研究助成獲得者1名</p> <p>②「目白大学短期大学部 紀要」第53号への論文発表者1名</p> <p>③学会発表(日本インターシップ学会・日本ビジネス実務学会、秘書サービス接遇教育学会、日本運動・スポーツ科学学会大会、大学体育研究フォーラム)3名(発表回数計6件)</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①新規の科学研究費獲得者はゼロであり、次年度へ向けての対策を検討する。</p> <p>②学内特別研究助成獲得者も、共に成果の取り纏めおよび論文作成には至っていない状況への対策を検討する。</p> <p>③「目白大学短期大学部 紀要」への執筆を始め、学会誌への投稿などへの促進対策を検討する。</p> <p>④一部教員に学会研究会への参加が少ない状況の改善策を検討する。</p>			
学生指導	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①クラス担任が学生の出欠集計状況を確認し情報の把握を行い、学生への電話指導・個人面談を実施した。また得た情報は学科内全教員で共有する事で常に誰もがどこでも即応できる体制を構築し実施した。</p> <p>②遅刻・欠席が目立つ学生には、担任のみならず全教員が授業時に注目して対応策(注意・カウンセリング)を実施した。</p> <p>③クラス担任・ゼミ担当教員が連携し、キャリアセンター主催の就職ガイダンスや就活セミナーへの参加率に注目し、将来に関する意識付け対策を実施した。</p> <p>④桐和祭、スポーツフェスティバル等の学校行事へも積極的に参加する事で、短期大学部・ビジネス社会学科への帰属意識を高めさせる施策を実施した。</p> <p>⑤クラス担任とゼミ担当教員が連携し、「出席率の向上」を目標として、頻繁な学生とのコンタクトによる対面率の維持、および保護者との電話・面談を実施した。しかしながら、期末結果としては退学者1年生5名・2年生5名、留年生4名という前年並みの数値となり退学・留年学生を共に減少させるには至らなかった。次年度へ向けてのさらなる対策が必要である。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①採用活動として開催される昨今の新しい1日インターシップスタイルに対する学生認識変革と積極的な参加意識増大対策を実施する。</p> <p>②1年生であり已むえない状況を認識し、将来の就職活動に対して意識・知識(仕組など)が低い学生への対策を強化し実施する。</p> <p>③専任教員の欠員体制での学科運営が続いており、授業や個別指導など多方面での教員の多忙さを克服する対策と体制を構築する。</p>			
社会貢献	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①例年の活動として、文京区本郷法人会の「財務諸表講座」、株式会社トーハンの流通業講座を開催し社会貢献に努力した。</p> <p>②地域社会学科と協力し、地元住民向けの「遺跡フェスタ」に学生ボランティアとして参加し、社会貢献に努力した。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①学会、協会役員等に携わる教員は2名、地域貢献に参加した教員も1名しかいない状況であり、今後できるだけ多くの教員が積極的に係る事を期待し推進する。</p>			
組織マネジメント	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①常に同一レベルの情報を共有化した上で、目標に向かって活動を押し進める環境づくり設定の為、月1回の学科会議に拘らず臨時の学科会議を開催し、学生対応/学科・短期大学部対応/保護者対応などすべての面での即応体制を一定レベルまでに強化構築した。</p> <p>②多くの教員が複数の担当委員や短期大学部内イベント担当として職務を理解し精力的に遂行し、高い成果を達成した。</p> <p>③学科長と教員とのコミュニケーションの活発化を目指した「つぶやきの収集」の取組みを実践(提案・実行型組織の確立)した。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①2年連続での専任教員1名欠員状況の解決の為、適任者補充を早急に実施し、その上で学科所属教員の担当授業の構成体制および学科内担当業務配置について再検討する。</p> <p>②学科構成教員数の事由から、多くの教員が委員会・その他業務担当を重複している現状を直視し、適切な組織運営について検討する。</p> <p>③次年度に改訂する新フィールド体制に関して、学科としての運営体制構築に向けての準備作業を確立しスムーズな導入を目指す。</p>			
その他	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①平成28年度も10月の桐和祭開催時に、ビジネス社会学科として「ホームカミングデイ」を企画し実施した。多くの卒業生に参加案内を通知し、前年度よりも参加者は増加し企画としては盛り上がったものの2桁に至る参加にはならなかった。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①上記したように2年目の「ホームカミングデイ」を開催したが、参加人数が不十分であり、さらなる周知徹底に向けて検討を行い有意義な企画としての定着を目指していく。</p> <p>②短期大学部公開講座開催については、授業形式の企画には人気がなく集客が課題となった。「コト的授業」には関心が寄せられる傾向があると分析し企画を目指すものの、ビジネス社会学科に関連づけた活動としては難しさがあ今後大きな課題となった。</p> <p>③次年度より入学定員数が75名に増加する事から、オープンキャンパス企画の再点検・充実および入試広報部と教員のコラボ活動の強化を図り、確実な定員確保を実現する。</p>			